

小安峡温泉
お宿 **山の守**
Yama no shou

秋田
小安峡

秋田県湯沢市菅瀬字湯元185-1 TEL.0183-47-5550
URL <http://www.yamanoshou.jp>

河北新報

人むすぶ、三陸応援メディア
広域交流版
◆◆◆配布エリア◆◆◆
宮城沿岸・県北、岩手県南
第 138 号

2018年(平成30年)
10月18日(木)
発行/河北新報社 営業局 営業部
仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)
広域交流版編集室(大崎営業所)
TEL0229-22-7511

ドローンで山林調査

気仙沼の「マルタク」が業務指導

IT関連サービス業務などを行う気仙沼市のマルタク(黒沢拓司社長)は9月26日、ドローンによる山林調査のための研修会を大衡村で開いた。指導を受けたのは山林調査などを行う宮城県林業開発センター(仙台市)の社員。実際にドローンを飛ばし、ノウハウを学んだ。ドローンの産業面での活用は飛躍的に進んでおり、マルタクはさらなるニーズの掘り起こしを図る考えだ。

26日は事前に操作、法令などの講義を受けた開発センター社員6人が参加。うち2人がマルタクのオペレーターの指導でドローンを操作し、デモ調査をした。小の起伏はもちろん、急斜面がある場合が少なくない。静止画については2秒間隔で自動撮影。その画像を基に3Dマップを作成する。樹木の種類、山林の面積、地形までさまざまにデータを取得することができ、指導を依頼した同センターは「実際に林内に足を踏み入れないといけない調査もあるが、ドローンを使うことで従来以上に山林の状態が詳しく分析できることを実感した」としている。マルタクの黒沢宏二専務は「山林には崖など地形的に調査が難しい場所があるほか、災害発生後など立ち入りできない場合がある。調査の効率化、多面化だけでなく、従来以上に山林の状態をリアルタイムで把握できるメリットもある」と強調する。

山林調査は、作業員が実際に林の中に分け入って行う。現場が林道から離れた場所にある場合は徒歩での移動に時間がかかる。山林内部は草木が生い茂り、見通しの悪い場所があり、大

今回使用したドローンは30倍ズームのカメラを搭載することが可能で、現場に近づけない場合でも十分にターは「実際に林内に足を踏み入れないといけない調査もあるが、ドローンを使うことで従来以上に山林の状態が詳しく分析できることを実感した」としている。

大衡で技術研修会



マルタクのオペレーターの指導で、ドローンを使って山林のデモ調査をする宮城県林業開発センターの社員＝大衡村

マルタクは今年1月以降、東北ドローンスクールを気仙沼市と仙台市に開設した。三陸沿岸では初めての一般社団法人日本UAS産業振興協議会(JUIDA)認定校だ。受講生は3日間に関係法令などの講義と実技講習を受け、合格すればライセンスを取得できる。

ドローンの活用は現在、急速に進んでいるが、それに伴う事故も懸念されている。安全な運用をするためにも、確かな操縦技術だけでなく、改正航空法など規制する法律を理解することが前提となる。

東北ドローンスクールの仙台泉校では、無料説明会を定期的に開催している。連絡先は022(2)2020(5)160。